

ケアマネジャーの業務 ②

前回のコラムで、介護保険制度の中核を担っている専門職の「ケアマネジャー」が今、「困ったときに、とりあえずお願いすれば何でも助けてくれる人」という捉え方をされがちで、本来業務から離れた「家族代行」のような業務に日々忙殺されることが多いということをお伝えしました。今回は、現場のケアマネジャーの苦労をもう少し詳しく見ていきましょう。



介護保険の申請をしてケアマネジャーがついたときに、本人の意思決定支援をしてくれる家族が身近にいればよいのですが、そうでない場合には「電球が切れたから取り替えてほしい」から始まり、「携帯電話の使い方が分からないから教えてほしい」「ワクチン接種の予約をしてほしい」、そして更には「ワクチン接種に連れて行ってほしい」などと、本人からの要望がどんどん続いていきます。

そして本人の心身の状態が不安定になってくると、本人からだけでなく周囲からもケアマネジャーへの要望が投げかけられてくるそうです。

医療機関からも「ワクチン接種にはケアマネが付き添うように」、救急車を呼んだら救急隊から「救急車に同乗してほしい」、救急車が病院に着いたら救急窓口で「入院手続きをして、緊急連絡先に名前を書いてほしい」と。明らかにケアマネジャーの職務権限の範囲を超えることを、どんどん要求されるとのこと。

緊急のことだけならともかく、買い物中に転倒して骨折し、救急車で運ばれた高齢女性のケアマネジャーは、搬送先の病院から連絡を受け「病院にいる本人に自宅の鍵を借りに来て、自宅から入れ歯と着替えを持ってきてほしい」「買い物袋にアジの開きと卵が入っています。こちらで勝手に捨てることは出来ません。取りに来て自宅の冷蔵庫に入れてほしいとご本人がおっしゃっています。」などと言われるそうです。

ケアマネジャーが、担当する高齢者の一人一人にこんなことまで対応していたら、本来業務が滞りかねません。しかもケアマネジャーの介護保険における報酬単価は、地域によって違いますが1件当たり約1か月11,000円～14,000円です。要介護高齢者を何人担当するかによって、稼ぎが変わってくる仕組みです。ケアマネジャー側の気持ちに立ってみると、頼れる家族がいて家族が世話をしてくれる高齢者を担当すれば、ケアマネジャーの本来業務だけを行えばよいにもかかわらず、頼れる家族がいない人や家族がいても動いてくれない場合には、本来業務以外の業務でスケジュールが埋め尽くされしうことを考えれば、報酬単価は同じなのにその負担感の違いを考慮せざるを得ないことになるでしょう。

こうした現状を考えてみても、どこまでを介護保険で見べきか、家族ありきを前提としていることが問題なのではないか、というそもそも論としての課題が浮かび上がってきます。国の政策としての議論が待たれるところです。